

明治三十七年五月

露韓條約廢棄一件

外務省

2-0055

04:00

田村 十郎

大臣

電信課長

次官

主管

山田



電受第七六二號 明治三十二年三月廿三日 午後六時五分 發

山村 勲 林 使

才三百二十號

通商條約其他、合同條約ハ日

外務省

紳議定書、成立及兩当事國於  
テ各由ニ便任ヲ撤退セシムル事情  
ニ顧ミ今後ニ其効力ヲ有スル長シ  
ト雖モ尚ホ多ク反對ノ理由ナシト根  
ラサシテ以テ世際紳士政府ラシテ  
公然、名法ヲ以テ露紳西兵間ニ臣  
前成立セル諸種、条約合同ニ後テ  
効力ヲ失ヒタル旨ヲ宣言セシムコト事  
宜ニ適スルト思考ス殊ニ鴨綠江  
ニ於ケル森林伐植、如キ我軍ノ

2-0055

04:18

行進ニ伴ヒ正武ニ我々ニ経歴ニ  
 必要生スヘキ付之ヲ抗スヘキ  
 五、權利ハ形式上抹消シ置ク必  
 要アリ如シハ考量ノ上申訓令ヲ請  
 フ

外務省

2-0055

04:19

2

外人  
署名

七二  
七

在

少知  
少知

印

外務省  
印

署名  
署名

光復三三〇号上中ノ件ハ

署名南方ニ於テモ亦  
署名

署名  
署名

署名  
署名

外務省

2-0055

0420

大臣

次官

電信課長

主管

Handwritten signature

Handwritten signature



電受第七九二號 明治廿七年三月廿一日午後一時十分 發

外務省 外務大臣 林有造

外務省 外務大臣 林有造

貴電外務省に於て、本邦の植民地

に於て、信託事務司の設置に關し、山林伐

採、其の利益を本邦に歸せしむるに關し、

外務省

國人及び会社に譲渡し、譲渡の権限

を規定するに關し、本邦の國人以外に譲

渡するに關し、明文に於て、現在在在の國

に於て、譲渡者に關し、一、其の利益を本邦に

歸せしむるに關し、二、其の利益を本邦に

歸せしむるに關し、三、其の利益を本邦に

歸せしむるに關し、四、其の利益を本邦に

歸せしむるに關し、五、其の利益を本邦に

歸せしむるに關し、六、其の利益を本邦に

4

明治二十年四月廿一日

大正

大正

加百事由

者乃為重中一四六号一美之三年

行神前、各局及伯米、白海、外務省

及又の令社、其の先、新澤之社、有主

大之、外務省、時、格、能、之、意、ク、有、主、事、中

外務省

セ、この、事、有、任、時、任、任、及、主、任、任、任、任

森、林、代、任、任、任、任、任、任、任、任、任、任

任、任、任、任、任、任、任、任、任、任、任、任

任、任、任、任、任、任、任、任、任、任、任、任

任、任、任、任、任、任、任、任、任、任、任、任

任、任、任、任、任、任、任、任、任、任、任、任

任、任、任、任、任、任、任、任、任、任、任、任

2-0055

0422

5

大臣

電信課長

次官

主管

電受第九三三

號

明治廿七年

四月廿五日

午後二時

廿分

發着

村外務省 外務省

カ四一〇号

管方カ三三〇号電都去後紳商修約

撤消と再し交渉のカイセリが存社

力捕鯨修約、より得え捕鯨解約

外務省

地三個所、当因在海岸、漁業根

拠地として有用、但東、身、可成

我手、有り置、大し、修約撤消

前、我、軍隊、千、一、二、三、必要、

ト、信、た、付、り、電、カ、一、四、三、号、ノ、川、令、

甚、ス、一、反、り、海、上、至、当、構

置、ノ、取、り、し、コ、ト、セ、

6

鳴

北

明治 年 月 日  
起 草  
日 發 達

七

政務局長

少

主任

電信課

カ

電送第 號  
明治 年 月 日

主 任 林 使 大 五

カニ

貴電示口百号、園に捕鯨解

刺地、園に梅利、倉社、杉橋

属スルヲ、軍隊、おた之ヲ在、

シタリ、結局、之ヲ倉社、園に

スル、園に、漁業、採地、

水産、業、倉、移、転、た、

モノ、海、山、大、倉、倉、ミ、



林教  
晴

上  
7  
甲

田

宣統元年八月八日

立  
二  
五  
号

紳  
五  
政  
府  
シ  
テ  
決  
す  
處  
紳  
而  
不  
言  
ハ

成  
立  
セ  
ル  
一  
切  
ノ  
条  
約  
及  
條  
束  
ヲ  
廢  
止  
ス  
ル  
ニ

シ  
テ  
五  
ノ  
後  
日  
ノ  
處  
ヲ  
賂  
サ  
ン  
ル  
ノ  
為  
メ  
及  
要  
シ

ナ  
ル  
付  
志  
者  
ノ  
時  
機  
ハ  
於  
テ  
右  
ノ  
如  
ク

取  
ラ  
ル  
事  
ナ  
リ  
ト  
今  
ヤ  
處  
事  
ト  
シ

外務省

共  
ニ  
大  
敗  
リ  
取  
リ  
紳  
亦  
上  
下  
ノ  
怨  
念

者  
一  
層  
甚  
シ  
シ  
由  
係  
ス  
ル  
ニ  
お  
り  
既  
ニ  
在  
露

紳  
亦  
以  
テ  
此  
ノ  
如  
ク  
扱  
定  
ノ  
詞  
令  
ヲ  
受

シ  
タ  
ル  
事  
ハ  
際  
際  
ニ  
お  
り  
取  
ラ  
ル  
事

ハ  
時  
局  
ノ  
お  
よ  
ト  
思  
ハ  
ル  
所  
ナ  
リ  
紳

亦  
以  
テ  
内  
務  
省  
ノ  
支  
隊  
シ  
テ  
取  
ラ  
ル  
事

ハ  
宣  
統  
元  
年  
八  
月  
八  
日  
宣  
統  
元  
年  
八  
月  
八  
日

五  
田

2-0055

0425

△

大韓政府ハ日本カ要求ニ對シテ戦ヲ  
 宣スルニ至リタルハ一ニ大韓帝國ニ  
 獨立ヲ維持シ東亞全角ノ平和ヲ確  
 立スルニ在ルヲ念ヒ日露ニ議定書ヲ締  
 結シ勦力以テ日本ヲシテ交戦ノ目的ヲ  
 達スルニ便ナクシ  
ノ今又在露ニ供使ノ撤退ヲ求メ露ノ外  
 國ニ對シテ是ノ事ヲ宣ハシテ其ノ  
 意ヲ示スルニ向ツテ
 我々 將東ニ向ツテ  
 用信置ラズ明白ニ且ク露兵ヲシテ快  
 束ニ以テ条約者ニ特許等ニ藉口  
 ニ侵畧的行動ヲ再ヒスルコトナラシ  
 ノニカ爲シ大韓政府ハ勅命ヲ奉

2-0055

0426

之旨を、此の旨を

一、従来特産物等、海陸一切

、条約及約束之、廢棄之全然

其効に帰せしむ

二、露西亞人民等、會社に與ふの特

許中、今尚有効ナルモノ、今後大抵

政府に於て支障を見せしめ之を継

續享有す、殊に、雜豆、滿江

及鴨綠江岸森林伐採、採石

特許、元來國人に與ふモノ

2-0055

0420

ナレモ案際露兵政府ニ於テ自之ヲ

強要シ其後特許ノ条件ヲ履

マズ不法ナリ動ク限ニシテ以テ

之ヲ廢棄シ全然其効ヲ消

シム

本条

2-0055

0428

9

田村トモ

大臣

電信課長

次官

主管

電受第一〇九

號 明治三十七年五月十日 午後六時五分 發

小村外務大臣 主簿 林使

貴電外局十五號 貴務、業  
約、展業、業、の、訓令、次、了、承、  
速、務、品、部、の、由、答、協、援、の、件

外務省

於、之、に、件、の、界、際、に、在、る、捕、鯨、船、  
社、の、特、權、の、展、業、に、關、し、の、件、業、の、當、  
才、外、四、百、号、電、報、京、申、に、對、し、て、の、電、  
報、外、二、百、号、の、申、請、に、對、し、て、の、電、  
捕、鯨、船、解、割、地、の、界、限、に、係、る、捕、鯨、船、  
權、の、特、權、の、展、業、に、關、し、の、件、業、の、當、  
才、外、四、百、号、の、電、報、京、申、に、對、し、て、の、電、  
報、外、二、百、号、の、申、請、に、對、し、て、の、電、  
捕、鯨、船、解、割、地、の、界、限、に、係、る、捕、鯨、船、  
權、の、特、權、の、展、業、に、關、し、の、件、業、の、當、  
才、外、四、百、号、の、電、報、京、申、に、對、し、て、の、電、  
報、外、二、百、号、の、申、請、に、對、し、て、の、電、

2-0055

0429

臣民ヲシテ引渡キ此物權ヲ專有セシ  
 △凡理國ナキカニ先王捕鯨解剖地域  
 神皇政府ニ取戻スニ當リテ之カガ  
 權限ハ先王御社ノ公費ニ弁償スル  
 必要アルニ右ノ理由ニ基キ上議  
 物權ノ果シテ廢棄スル理國アルモノト  
 公法ニ上ニ此條條條セテ之効ヲ宣言  
 スルカ美ノハ先王御社ノ公費ニ弁償  
 ノ亦二條前條(以後大佛政府ヲ  
 支障ノ見ガレ限リトアルニ果斷ニ  
 大佛ニテ之ヲ支障アリト見做スモノトシテ  
 追テ其効ヲ宣言セシムル權限サカシ  
 公法條ヲ法ヲ

外務省

2-0055



珍玉

お書

立紳

林

少

電送第三號

中

電

日

中

止

外務省

海

先

張

高

條

系

高

上経甲山

大臣

電信課長

*[Signature]*

次官

珍田

主管

*[Signature]*

*[Signature]*

電受第一〇七〇 號 明治三十七年五月五日 午後二時五分 發

小村務大臣

小村務大臣

外電字七号

貴電外電字七号、露韓間、條約撤  
廢、件、閣、本官、昨日、外部、存  
在、面議、多、因、大臣、全、然、同意、

外務省

表、速、力、陛下、奏上、之、上、決、行  
之、旨、明、本官、猶、未、同  
大臣、對、愈、表、奏、返、十  
分、本件、機、密、保、必要、陳、  
且、之、表、表、方、式、官、報、之、布、元、  
外、外、國、駐、在、韓、國、公、使、之、電、報、  
必要、場、合、各、條、約、國、之、聲、明、元、  
旨、陳、置、

11

2-0055

0432



12

おひつり

上総津波河川

東京

大臣

電信課長

次官

主管

在

印

電受第一〇八二號 明治三十七年五月十七日午後十時十分

少村外務大臣 在津林平使

第四十九號

才二百十五號申請電報翻譯條約廢棄之旨を宣旨ニ爲シ皇帝ニ奉日午後特ニ秘密申請令讀ヲ宛レ一存

外務省

略詢ヲ至テ老爲大臣ニ年ニ官報ニ奉表ノ午後ヲ採ラシテ中旨内々其侍臣ヲ以テ奉友ニ傳ヘテ進テ申請令讀ノ結果一電報ニシテ不可故也告電

2-0055

0483

13

上巻上段九

大臣

電信課長

Handwritten signature

次官

珍田

主管

Handwritten signature

電受第一〇八五號 明治三七年五月十九日午後二時四分

小村外務大臣 韓林公使

當方第四四九号電報。閱昨夜官報。辨外。以テ勅宣書トシテ。通達表スル

外務省

勅宣書

一 後東韓露西國間。締結スル。条約ト。恒定ニ。俾テ。廢止シ。金悉世。効トスルニ。ト

一 露西國臣民。若クハ。會社。認許セシ。特許。合同。中。今。至。テ。尚。未。其。期。限。内。ニ。アル。モ。ハ。以。後。ハ。大。韓。政。府。カ。以。テ。認。許。セ。シ。ト。ス。ル。ハ。前。ノ。如。ク。其。認。許。ヲ。継。續。享。有。セ。シ。ム。ニ。至。テ。江。鴨。緑。江。對。岸。島。林。林。伐。植。ノ。特。許。

2-0055

0434

ニテハ元来一個ノ人民ニ許諾セシセ  
ナレト莫ク露國政府力自ラ経管シ  
存スルニテ該特許規定ヲ遵守  
スルヲ實權ニ侵台的行爲ヲ爲セシ  
付該特許ハ之ヲ廢止シ全然施  
行セザルコト

外務省

2-0055

0435

大 臣  
次 官  
通 商  
人 事  
會 計  
取 調

Sent, ... 190...

一九〇...  
一九五...  
Wd

林 正 良  
田 中 公 使

小 村 外 務 大 臣  
(第 二 七 七 号)  
(第 三 四 二 号)

先 記 大 臣 林 正 良 重 重 第 四 八 号  
貴 州 省 中 外 通 商 局 長 田 中 公 使  
貴 州 省 中 外 通 商 局 長 田 中 公 使  
貴 州 省 中 外 通 商 局 長 田 中 公 使  
貴 州 省 中 外 通 商 局 長 田 中 公 使

轉 電 七 〇 (田 中 公 使 一)

貴 州 省 中 外 通 商 局 長 田 中 公 使  
一 二 項 〇 除 〇

Via

2-0055

0436

14

次友  
ちん  
系

立紳

林三史 山おらん

外二二三三編

外電四〇号と突に五年前

文の官報に掲載せしがりて

に掲載せしがりてその共記のり

外務省

ニ書業の原案、台キリに記述

ヲ附るニト必要ナルモノ進テ各本

改訂、右原案、方々由ある

際、この前文ヲ附るに採り

ハニシ

明治三十二年五月  
五月五日  
五月五日

2-0055

0437

15

上級印

大臣

電信課長

Handwritten signature

次官

主管

Handwritten signature

電受第九六號 明治七年五月三日 午後七時一分

小村外務大臣 林公使

申四七九號

度陽 奉旨撤排 初宣書外

却大臣 照外務 出公使 電

報云以テ 通告云云 旨中 友書 函

外務省

以テ 通知セリ

2-0055

0438

16

大臣

電信課長

森田

次官

主管

佐

電受第一〇九七號 明治卅二年五月廿六日 午後七時三十分 發

小村外務大臣 外務省

中野千子号

貴電よりヨリニ言ハレテ、事ハ宣テ前文ハ  
議政所、於テハ可決スルモ之ヲ發表  
スル當リ甚ク躊躇スルモ之ヲ以テ

外務省

本官ハ宣テ昔々ハ中野千子号

ヲ達シ、發表スルコトハ、取付セザルナリ

本官ハ宣テ、右宣テ前文ヲ議

政所存議、五月廿三日

ノ官報ニ發表スル様、外務大臣ハ御

出中ナリ、又、同政府ハ、社有面議

ハ、御旨ノ趣、取付ナリ

露國條約廢棄之宣言

班中書

（大正七年十月十日附）  
（九月二十日、官報、外務省告示）

上右大臣、年、再、四、之、之、

大臣 


電信課長

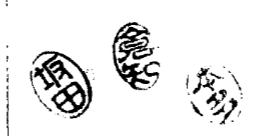


次官



主管





電受第一二三三 號 明治七年 年 月 日 午 時 分 著 發

小村外務大臣 拜替

才番九十五号

露國條約廢棄、拜元宣言、理由  
廿、廿月十日、日附、於、本日、  
官報、以、左、通、表、之、元

外務省

大韓政府、日、露、露、對、我、  
宣、之、一、大、韓、韓、之、維、持、  
車、河、全、向、平、和、確、立、在、  
ハ、恩、惠、表、議、定、其、亦、結、し、協、力、  
以、日、本、ノ、手、取、我、同、的、者、也、  
後、多、ク、今、又、在、露、之、條、約、撤、  
退、之、事、故、韓、露、商、外、交、  
事、後、ハ、以、露、於、新、條、約、之、商、  
符、其、我、ハ、大、韓、之、理、是、リ、明、之、  
且、之、露、國、ノ、以、前、如、條、約、

17

2-0055





特許令國等、新口は侵略的  
行為、再々、自国に力ある  
在外の大臣、勅宣其業、議  
政府有、所提出、経済、後  
御政府、矢、改、正、上、奏、し、裁  
可、せ、り

外務省

2-0055

044:

大臣 官 務 政 通 事 人 會 取  
計 務 務 務 務 務 務 務 務

林

Via

Dated, Berlin, May 28th 1904 1.35p. m.  
Received, May 29, 4 6.10 am.

電受第 二二七一號  
70 Wils.

Komura,  
Tokyo

林

No. 214. -50. In reference to my telegram 213, in view of the fact that Korea has now annulled all her treaties and conventions with Russia, would it not be better to take steps to have Korean Minister at St. Petersburg recalled as I hear he is a person of rather pro-Russian character; and moreover, it is hinted in several quarters that as he is in pecuniary difficulties, he is living there at the expense of the Russian Foreign Office. Even the German Vice-Minister for Foreign Affairs told me May 27th that such a report had also come to his ears. Under these circumstances I think the continued stay of the Korean Minister at St. Petersburg would not only be improper but might not contribute to our advantage.

Inouye.

2-0055

0442

大臣 次官  
政務 通商 人事 會計 取調

Via

Sent *Hayashi* 29<sup>th</sup> 1904. 10.10 a.m.

*Hayashi*  
*Seoul.*

228. 在 93 2 12 214

(全 2)

*Komura.*

電送第  
2  
/  
/  
0  
號  
Wils.  
75

2-0055

0443

19

明治廿七年五月十九日 陸軍省 陸軍部

陸軍部 陸軍部

陸軍部 陸軍部

七二八四

本日第四八。錦電報ニモ露韓條約廢棄、勅宣書本及以紙印送付迄、付印查閱本年度ノ敬具  
明治廿七年五月十九日

在韓

符命全權公使林權吉



外務大臣男爵小村嘉太郎 啟

在韓國日本公使館

2-0055

0444

20

# 官報

號外

光武八年五月十八日

## 勅令

勅宣書

一 既往韓俄兩國間締結條約耳協定全  
 一體廢罷す且全然勿施事  
 一 俄國臣民ハ會社ハ認准シテ特許合同  
 中至今尙在其期限内者ハ自今以後ハ  
 大韓政府ガ以爲無妨者ハ如前其認  
 准ヲ繼續享有ス至豆滿江鴨綠江  
 對靛島森林伐植特許者ハ本來一個人  
 民ハ可許諾ハシテ實狀ハ俄國政府ハ  
 自作經營ハ除外該特准規定ハ遵行セ  
 テ立憲意ヲ侵占的行爲ヲ爲スルコ  
 ト該特准ハ廢罷す且全然勿施事  
 光武八年五月十八日

御押

御璽

奉

勅 議政府參政 趙秉式  
外部大臣 李夏榮

2-0055

0445

21

生

不二三四号

小村外務大臣

立紳

紳子作

紳心以存... 紳子作

紳心以存... 紳子作

紳心以存... 紳子作

外務省

紳心以存... 紳子作

紳心以存... 紳子作

明治三十二年

田島

2-0055

0446

IMPERIAL GOVERNMENT TELEGRAPHS.

(Forwarded Message Form.)

Time sent	Station to	by	Remarks	Charges { Total	Telegram
Class	Original Office	Seoul			
No.	Words			Space for Stamps	
Date	19	Time	m		
Delivery Station					
Address					
Korean Legation					
Berlin, London, Peking, Paris, Washington					
(Please write distinctly)					
Treaty between Korea and Russians and					
great concession cancelled by decree					
Signature of Sender			Pissoo		

Note.—The name/or address of the sender, if to be telegraphed, should be written as the last word of the message, otherwise the signature is not transmitted but is required to certify the genuineness of the telegram.

電送第六九〇號

在韓公使

明治三十七年六月二十日午後五時發

少外少助本五

本子範吾ハ再々露部ニ還リタルモノナリ就テハ  
 韓國政府ヲ速ニ告ムル露部ヨリ撤退セシム  
 ル様沙取付アリタル又韓國政府ハ露韓條約  
 廢棄ノ事ヲ在京城各國公使ニ通知セシヤ本  
 邦經由リ電信ニヨリハ韓國政府ハ軍ニ在在約廢  
 棄ノ事ヲ在外韓國公使ニ報シタルニ由リ任國  
 政府ニ由テ電サリシカハ果シテ然ラハ急電  
 送セシムル様沙取付アリシ

系書ハ在露國公使館撤退一件中ニ在リ  
 外務省



電受カニ七六號

明治三十七年六月三日 午後二時三十分

中務省

韓林公使

先電第ニ万三十四號ニ由リ李親王カ伯林近來  
 リシ際當國外部大臣ハ本官ハ勅令ニ依リ電  
 報ヲ以テ同公使ニ對シ撤退并ニ條約廢止案ニ關  
 スル訓令ヲ受取リタルヤリヨリ本官ハ同公使ハ返  
 電ヲ發セズレテ露都ニ引キ返レタリ本官ハ當國  
 政府ヲ以テ同公使ニ對シ撤退セリトシ決行  
 セリルニ務ム可シ露韓條約廢止案ニ關シテハ外部  
 大臣ハ外國駐在公使ニ電報シタリ、外當地各國  
 使臣ニ公然ノ通知ヲ發シタリ

原書ハ在露韓國公使館撤退一件ヤリタリ

24

上総陸奥

大臣

電信課長

*[Signature]*

次官

主管

*[Signature]*

電受第二八二號

明治二十六年六月三日 午後四時四分 發

小村外務大臣 左 林正使

才五二二號

貴電才二三六號ニ答シ奉ル

ハ尚ホ外部大臣ニ而會シ上確ヲタ

ルニ条約破棄ヲ各國政府ニ諍

外務省

所方ニ嘉雨ニテ在外ニ使ニ訓令

ヲ發シタルニ趣キ此地者代表者ハ

ハ才五二〇號未般、如ク既ニ聲明

明シタルニ付キ右ニテ充分ナリト

思フス此地ニテ聲明シタルニ云文

ニ一前接ヲ者キアリタルニ別般

差支ハナシト思フス左友ニ其終

ニ差支置キタリ

駐米公使極退帰必キ再ハ再ハ

駐米公使ニ電報ニテ返電ヲ求

2-0055

0450

メタニモ四電ニ據セザル由ナリ  
モ既ニ電送シアン趣ナリ  
調電ノ来ラザルハ如何ナル理由ナレカ  
不明ナルニ付テハ井上公使ヲシテ駐  
米韓公使ニ就キ内容ヲ確ク  
ア、ル、一、ヲ希望ス

外務省

2-0055

045:

大人

次友

25

247/

機密第五三號

韓露條約廢棄ノ件

過般當國政府ニ於テ決行シタル露韓条約  
 撤廢ニ関スル宣言書ノ趣旨ヲ當地駐在  
 各國使臣ニ通牒方本使、勵告、基キ外部  
 大臣ハ去月廿七日ヲ以テ別紙甲號ノ如キ通  
 牒ヲ發スルニ至リ然ルニ右通牒書ハ何故カ  
 其前提書ノ載明ヲ欠キ稍、本使勸告ノ  
 趣意ト反シ遺憾ナキ能ハスト雖モ要スル既  
 矣是ニ相濟ミタリ上ノ事、有之且ソ過般官  
 報、特、前提書ヲ載セ發表シタル事實、  
 顧、今特、照會文中、掲載セザルモ格別  
 瑕瑾トモ認、不申事間其儘ニ看過致仕

在韓國日本公使館

書廢今日外部大臣事務所上其直話、  
 右ノ同時ニ在外韓國公使ニ向テ該前提  
 書ヲ附シタル宣言書ヲ郵送ニ各其任回政  
 府ニ通牒方ヲ訓令シタル趣旨有之至果シテ  
 然ラハ本使ノ希望モ之ニ由リ達シ得ヘト存案  
 將又當地在留使臣中獨逸公使ヲ除キ他ハ  
 總、右外部大臣、通牒ニ對シテ承シタル旨  
 ノ回答ニ接シタル趣旨亦同官ヨリ承知及至  
 茲、亦夕本使ハ本日ヲ以テ別紙乙號ノ回答  
 送付致置直案此段別紙甲乙號相送及具  
 申事別具

明治三十七年六月三日

2-0055

0452

在韓

特命全權公使 林權



外務大臣 野田 小村 壽 次 郎 殿

在韓國日本公使館

2-0055

0453

26

寫

照會第八十九號

大韓外部大臣李夏榮為照會事對韓俄  
開交際上降有

勅宣書茲庸恭錄另附備文照會  
貴公使請煩查照須至照會者

右

照

會

大日本特命全權公使林權助閣下

光武八年五月二十七日

日本公使館

2-0055

0454

勅宣書

一 既往韓俄兩國間訓締結之條約斗協定  
 之一體廢罷之且全然勿施之事  
 一 俄國臣民の申會社則認准之申特許合  
 同申至今尚在其期限内者之自今以後至  
 大韓政府外以為無妨之者也如前引其認  
 准之繼續享有則之申至於巨滿江鴨綠  
 江蔚陵島森林伐植特許之申之本來一  
 個人民則許諾之申引實狀之俄國政  
 府自作經營之申外引該特准規定之  
 遵行申外引且恣意之侵台之行為之  
 申外引該特准之廢罷之且全然勿施  
 之事

在韓國日本公使館

光武八年五月十八日

28

寫

以書翰法於上矣陳者卷月廿七日付八十九號印  
照會接到今日由英法政府、日、韓、露、間、現在在  
條約其他各國、露國臣民、與之、特種、條約、  
ヲ、所、廢、棄、九、年、以、前、之、條、約、更、之、勅、宣、書、全、文  
印、通、教、在、年、了、業、致、候、在、回、各、得、之、意、支、敬、具  
明治三十七年六月三日

特命全權公使林權助

外部大臣 幸夏 榮 閣下

在韓國日本公使館

2-0055

0456



明治廿六年四月十日

寫  
明治廿六年四月十日  
機密第九二〇號

唐業之、捕鯨特許、  
業、古之、言、之、付

捕鯨行政、行、事、  
唐業、人、古、  
捕鯨、業、  
中、  
之、  
規、  
理、  
考、  
の、

唐業、  
ノ、  
使、  
此、  
中、

明治廿六年四月十日

唐業、  
標、  
助、

外、  
即、

唐業、  
付、

Copy.

Department of Foreign Affairs,  
Seoul, 8th, April, 1905.

Monsieur le Ministre.

I have the honour to inform your Excellency that the agreement between the Imperial Government and Count Keyserling, a Russian subject, for the lease of land to be used in connection with the whaling business, dated the 29th of March 1899 has terminated under the provision of Article XI of the said agreement which provides for the payment of four hundred and fifty yen as yearly rental and for the forfeiture of all the right granted him in case of nonpayment for a period of one year. The last payment of rental was made by Count Keyserling on the 1st of June 1903

for the year ending on the 28th of March 1904 and no payment has been made since then. Consequently in accordance with the provisions of the Article above referred to, a copy of which I have the honour to enclose herewith for your Excellency's information, all right granted him under the agreement have been forfeited to the Imperial Government.

I will avail myself of this occasion to renew to you,

Monsieur le Ministre, the assurance of my highest consideration.

Gi-Ha-yong,

Minister for Foreign Affairs.

His Excellency

Monsieur Collin de Plancy,

Ministre of France,

etc., etc., etc..

Tokio est par conséquent chargé de  
prier le Gouvernement Impérial du Ja-  
pon de se prononcer sur la validité ou  
non-validité du décret du 5<sup>rs</sup> Mai 1904,  
en vue des considérations ci-dessus exposées.

Le Chargé d'Affaires de Russie serait  
reconnaissant à Son Excellence Monsieur  
le Ministre des Affaires Etrangères du  
Japon de bien vouloir lui donner une  
réponse motivée à cette demande.

Tokio, le <sup>27</sup>Janvier ~~9~~ 1906.

2-0055

0459



Memorandum.

Par un décret daté du 5/18  
Mai 1904, Sa Majesté l'Empereur  
de Corée a déclaré abolis tous les  
traités et conventions qui existaient  
en ce moment entre les gouverne-  
ments de Corée et de Russie.

Le fait d'une pareille abolition  
de traités par une simple déclara-  
tion d'une des Parties contractantes  
qui ne se trouvait pas en guerre  
avec l'autre Partie contractante,  
est sans précédent dans l'histoire;  
le Gouvernement Impérial de Russie  
estimant qu'aucunes raisons aussi  
bien juridiques que logiques ne  
sauraient être invoquées pour justi-  
fier ce procédé, le considère comme  
inadmissible du point de vue des  
principes du droit des gens.

Le Chargé d'Affaires de Russie

四  
月  
二十  
九  
日  
奉  
上  
旨  
政  
務  
司

王  
督  
政  
務  
司

世  
九

第  
二  
〇  
九  
三  
號

大  
正  
三  
年  
五  
月  
五  
日

2-0055

0460

32

斐王

(四)

拜正皇帝陛下六千九百四年  
替日付物令ヲ以テ言事當時拜正及  
露西亞正政府ヨリ存在セル一切  
ノ条約及條約ノ廢棄セラレタルコト  
ヲ宣言セラレタリ

外務省

東戦ノ快進ニシテ  
一方ノ事ハ交戦ノ状態ニテカ  
一方ノ事ハ交戦ノ状態ニテカ  
宣言ヲ以テ他  
参内ヲ形シテ廢棄セル事亥ハ歴  
史上重テ先例ナキ所ナリ露西亞帝  
正政府ノ右処置ヲ正當ナリトスル爲  
ニ引用スルヲ得ヘキ何事論壇上及  
法律上ノ理由ナキモノト考フルニ依

リテノ如キ処置ハ至際情ノ事勿上扶  
シテ許容スヘカラサルモノト思考ス

在東京露公代官候ハ前送ノ如由アレ  
ラシテ本年九月四日付 十月十日付勅令

ノ有数ナルヤ無数ナルヤニ付吾人ヲ述  
ヘラレシコトヲ日本帝國ニ備テ

外務省

ヘキ旨ノ勅令ニ據セリ

依テ露公代官候ハ茲ニ日本領内務  
大臣等ニ組法ス方ノ詰亦ニ付シ  
如由ニ付シタル由奉テ其ノ如シキコトヲ

千九百零六年 十月九日 東京 於テ

海防省... 於... 官... 於... 九月廿五日

日本外務省  
平

33 覚書

日本帝国外務大臣は千九百六年二月九日附露國代理公使宛覚書ニ接シ露韓兩國間ニ存在スル諸條約及協定ヲ廢棄シ且千九百四年五月十六日韓國王陛下勅令ノ有効ニヤキ

外務省

無効ニヤキ帝國政府ニ對シテ  
意ヲ領セリ

右覚書中ニ表明セシル露西亞帝國政府ノ見解ハ帝國政府ノ同意スルコト能ハセリ

リトス

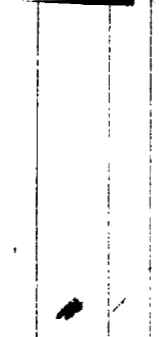
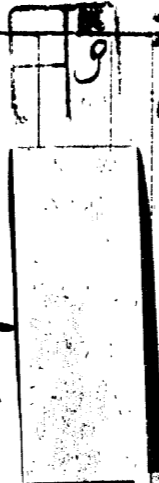
帝國政府ノ見解ハ所據ル前記勅令發布ノ當時戰事ノ狀態事實ニ於テ露韓兩國間ニ



日本外務省  
一九〇六年二月九日  
附露國

手記

機密



日本帝國外務大臣ハ千九百〇六年二月九日附露國  
代理公使ハ見書ニ接シ露韓兩國間ニ存在  
セ諸條約及協定ヲ廢棄シルル千九百〇四年五  
月十六日韓國皇帝陛下勅令ノ有効ニヤキ

外務省

無効ニヤキ帝國政府  
旨來

意ヲ領セリ

右見書中ニ表明セシル露西亞帝國政府

見解ハ帝國政府ノ同意スルコト能ハサルヲ

リトス

帝國政府見解ハ前記勅令發布  
當時戰事狀態事實ニ於テ露韓兩國間ニ

2-0055





存在し韓國は日本、同盟国メリシナリ而シテ露國  
ハ韓國内ニ於テ日韓國民ニ向テ敵對及侵畧行  
爲ニ地テリ是レ現實ノ敵ニ對シ現實ナル戰  
闘行爲ノ一要素ヲ成セルモノナリ推定スルニ非サ  
ルハ解説又ハ辯護又シ難カルヘキ所ナリ則チ前記  
勅令ハ戰爭結果トシテ既ニ存在セル事態ヲ  
確認セルモノナリ

外務省

故ニ本覺書ノ問題ハ諸條約及協定ノ現ニ  
無効ニシテ又將來無効ナルヘキハ帝國政府ノ  
意旨モ疑ハズナル所ナリ  
日露戰爭ノ終局ニ際シ露西亞帝國政府ハ  
右ノ勅令ヲ發シテ之ヲハツマニス會議ニ於テ各  
國全權委員ノ行動ニ徴シテ知事事實ニ  
シテ同委員ハ講和會議中韓國條約廢

新信

高、價值如何ノ問題ヲ提起セシテ當ニ  
韓国ニ関スル日本國ノ提案ヲ承諾セシメ  
ナラス此等ノ提案ヲ補足スルニ韓国ニ於ケル  
露國民ニ對シ最惠國待遇ヲ保障スルノ  
規定ヲ以テスヘキコトヲ求メタリ

該規定ハ其講和條約中ニ  
義ニ於テ露韓條約、依然トシテ有効ナリ

外務省

ト意見トシ全然相容レサルモノナリ

明治三十九年三月三十日

東京外務省ニ於テ

country and Japan, then it may be answered, that instances are not wanting in history of the effectual abrogation of treaties in times of peace by one of the contracting parties without the concurrence of the other, and that in the present case, the acts of aggression and hostility to which reference has been made, were such as to fully justify Korea, in view of the accepted principles of International Law, in abolishing by unilateral denunciation, as a measure of self-protection, her treaty relations with Russia.

~~In either alternative, therefore,~~ <sup>therefore</sup> the Imperial Government are well satisfied that the Treaties <sup>and</sup> Conventions and other engagements, ~~denounced by the Decree in question,~~ are and remain null and inoperative.

That such was the conviction of the Imperial Russian Government at the close of the war, is clearly deducible from the action of the Plenipotentiaries of Russia at Portsmouth. Instead of raising, during the peace negotiations, the question of the value to be attached to Korea's act of denunciation, they not only accepted the proposals of Japan in reference to Korea, but they asked that those proposals be supplemented by a stipulation assuring to Russian subjects in Corea most favoured nation treatment.

That stipulation, in the context in which it appears in the Treaty of Peace, is wholly irreconcilable with the

view that the Russo-Corean Treaties are still in force.

Department of Foreign Affairs

Tokyo *March 30, 1906*

年月日  
行  
金

2-0055

0487

あま  
記文

かん  
望  
らん  
ん

Memorandum.

乙 抄

乙 抄  
此の如き  
文は  
あり  
と  
す

His Imperial Japanese Majesty's Minister for Foreign Affairs has had the honour to receive the Memorandum of the Charge d'Affaires of Russia dated the 9th February, 1906, in which the Imperial Government are requested to pronounce upon the validity or invalidity of the Decree of His Majesty the Emperor of Corea of May 18th, 1904, denouncing the Treaties and Conventions existing between Russia and Corea.

The Imperial Government find themselves unable to share the views of the Imperial Russian Government as disclosed in the Memorandum under acknowledgment.

In the opinion of the Imperial Government, a state of war already, in fact, existed between Russia and Corea at the time the Decree was promulgated. Corea was in alliance with Japan, and Russia committed in Corea and against Coreans acts of hostility and aggression which it would be difficult to explain or defend except upon the assumption that they formed a necessary part of actual warlike operations against an actual enemy. In that case, the Decree served to confirm a state of things already existing in consequence of the war.

~~If, on the contrary, however, it be maintained that during the war, Russia and Corea were at peace notwithstanding the relations subsisting between the latter~~

2-0055

0458

乙  
抄  
本  
外  
文  
部  
長  
官  
印

乙  
抄  
本  
外  
文  
部  
長  
官  
印

上

御  
覽  
下  
之  
御  
用  
紙  
に  
お  
き  
て  
御  
返  
答  
を  
願  
ひ  
ま  
す

Memorandum.



皇  
太  
子  
御  
行  
幸  
に  
関  
し  
て  
の  
御  
用  
紙  
に  
お  
き  
て  
御  
返  
答  
を  
願  
ひ  
ま  
す

Imperial Japanese Majesty's Minister for Foreign  
has had the honour to receive the Memorandum of  
Affaires of Russia dated the 9th February,  
which the Imperial Government are requested to  
opinion upon the validity or invalidity of the Decree  
of Majesty the Emperor of Corea of May 18th, 1904,  
denouncing the Treaties and Conventions existing between  
Russia and Corea.

The Imperial Government find themselves unable to share  
the views of the Imperial Russian Government as disclosed  
in the Memorandum under acknowledgment.

In the opinion of the Imperial Government, a state of  
war already, in fact, existed between Russia and Corea at  
the time the Decree was promulgated. Corea was in al-  
liance with Japan, and Russia committed in Corea and against  
Coreans acts of hostility and aggression which it would be  
difficult to explain or defend except upon the assumption  
that they formed a necessary part of actual warlike oper-  
ations against an actual enemy. In that case, the Decree  
served to confirm a state of things already existing in  
consequence of the war.

~~If, on the contrary, however, it be maintained that  
during the war Russia and Corea were at peace notwith-  
standing the relations subsisting between the latter~~

2-0055

0469

1. It was after the consent of the Korean Government had been secured, that since the 8th day of the 2nd month of the 37th year of Meiji, the Japanese <sup>troops</sup> ~~armies~~ under the convey of the Uryu squadron, landed <sup>at</sup> Chemulpo and carried on military operations in Korea.

2. The Korean Government despatched telegraphic instructions on the 27th day of the 2nd month of the 37th year of Meiji to Li-Pon-chin, Korean Minister to Russia, to withdraw the Legation and remove to Paris; but as he did not act in accordance with the instructions, the Korean Government finally dismissed him on the 1st day of the 9th month of the same year.

3. After ~~the~~ <sup>the</sup> outbreak of hostilities, the Russian troops gradually descended from the frontier toward the south and intruded into Ham-Gyong-do. On the 19th day of the 5th month of the 37th year of Meiji, at 7 p.m., a large number of Russian troops entered the ~~gate of~~ Ham-Syang, Ham-Gyong-do, where the Korean soldiers fought them for an hour, losing one man. The Russian forces immediately withdrew <sup>therefrom</sup> ~~towards the~~ ~~outside of the gate,~~ and on <sup>their</sup> ~~the~~ way of retreat they set fire to private houses, several hundreds of which were burnt down. A Russian <sup>soldier</sup> was seriously wounded. On the morning of the 20th, the Russian forces retreated to Chyang-jin.

2-0055

0470

Explanatory Notes

on

the Imperial Proclamation

-----

The Korean Government, being <sup>convinced</sup> ~~convinced~~ that the sole purpose of maintaining the independence of Korea as well as of guaranteeing the peace of the East is that Japan declared war against Russia, <sup>with Japan</sup> ago a Protocol in order to facilitate <sup>letting</sup> Japan's attaining the object of the war, and ~~drawn~~ <sup>has</sup> their Legation in Russia. While relations between Korea and Russia heretofore

exist, the Minister for Foreign Affairs has, for the purpose of clearly defining the situation of Korea in future, as well as preventing Russia from again resorting to aggressive measures on the pretext of treaties, concessions or agreements as she did, laid a draft of the Imperial Proclamation before the Council of State, and <sup>has, after due consideration</sup> ~~has~~ secured the Imperial sanction <sup>and upon the joint</sup> ~~thereto upon the~~ submission with the <sup>President</sup> ~~Council~~ of the Council of State, <sup>secured the Imperial sanction</sup> ~~thereto~~.

The 18th day of the 5th month  
of the 8th year of Kuang-mu (the 37th year of Meiji).

*published in the official gazette  
on the 24th May, 1904*

日本外務省  
宣明書  
宣明書

2-0055

047:

Explanatory Notes  
on  
the Imperial Proclamation.

-----  
The Korean Government, being <sup>convinced</sup> ~~convinced~~ that it was for  
the sole purpose of maintaining the <sup>independence</sup> ~~independence~~ of Korea as  
well as of guaranteeing the peace of the Orient in general  
that Japan declared war against Russia, concluded some time  
ago a Protocol <sup>with Japan</sup> in order to facilitate by a co-operation ~~the~~  
<sup>latter's</sup> Japan's attaining the object of the war, and <sup>have</sup> ~~has~~ now with-  
drawn their Legation in Russia. While thus the diplomatic  
relations between Korea and Russia <sup>have</sup> ~~have~~ actually ceased to  
exist, the Minister for Foreign Affairs has, for the purpose  
of clearly defining the situation of Korea in future, as well  
as preventing Russia from again resorting to aggressive  
measures on the pretext of treaties, concessions or agree-  
ments as she did, laid a draft of the Imperial Proclamation  
before the Council of State, and <sup>has, after due consideration</sup> ~~has~~ secured ~~the~~ Imperial  
<sup>and upon the joint</sup> ~~sanction~~ ~~thereto~~ submission with the <sup>President</sup> ~~President~~ of  
the Council of State, <sup>secured the Imperial sanction</sup> ~~thereto~~.

The 18th day of the 5th month  
of the 8th year of Kuang-mu (the 37th year of Meiji).

published in the official gazette  
on the 24th May 1904

2-0055

0472



Cho-Sugsik,  
*President*  
Councilor of the Council of State.

I<sub>h</sub> Hayeng,  
Minister of State for Foreign Affairs.

2-0055

0473

多岐川系又の宣言

Imperial Proclamation.

1. All the Treaties and Conventions, previous to the present, between Korea and Russia, are hereby abrogated and no wise be enforced.  
2. The concessions or agreements granted to the corporations of Russia, the terms of which are still in force at the present, and which the Korean Government have not objectionable, may *retain their validity* ~~continue hereafter to enjoy the privileges granted thereby~~, but those concessions for felling and planting trees in the forests of Tu-man-gang, Am-nok-gang and Ul-leung-do, *forests* are hereby annulled and shall absolutely cease to take effect, in view of the fact that while such concessions had been originally granted to private individuals, the Russian Government in fact not only proceeded to undertake the enterprises by themselves, but also unwarrantably took aggressive actions without observing the stipulations of such concessions.

The 18th day of the 5th month of the 8th year of Kuang-mu.

Sign manual. Imperial Seal.

By Imperial Command,

2-0055



Imperial Proclamation.

1. All the Treaties and Conventions, previously concluded between Korea and Russia, are hereby abrogated and shall in no wise be enforced.
2. The concessions or agreements granted to the <sup>Russian</sup> subjects or corporations of Russia, the terms of which are still running at the present, and which the Korean Government <sup>shall hereafter</sup> deem to be not objectionable, may <sup>retain their validity</sup> ~~continue hereafter to enjoy the privileges granted thereby~~, but those concessions for felling and planting trees in the ~~forests of~~ Tu-man-gang, Am-nok-gang and <sup>forests</sup> Ul-leang-do, are hereby annulled and shall absolutely cease to take effect, in view of the fact that while such concessions had been originally granted to private individuals, the Russian Government ~~in fact~~ not only proceeded to undertake the enterprises by themselves, but also unwarrantably took aggressive actions without observing the stipulations of such concessions.

The 18th day of the 5th month of the 8th year of Kuang-mu.

Sign manual.

Imperial Seal.

By Imperial Command,

2-0055

0475

34

送第

明治三十九年三月三十日  
同日發達

政務局長

西園寺公使

外務省  
送第

伊藤博文宛

明治三十九年三月三十日發達

韓露法条約失致ニ関スル件

外務省

韓露法条約失致ノ件ニ關シテ  
露王代官トシテ三月九日付  
書翰甲子ニ提出仕越  
南方ニ於テ露王代官トシテ  
三月九日付書翰乙子  
及覆答等呈  
ル右様ニ付  
三月九日付書翰乙子  
及覆答等呈  
ル右様ニ付

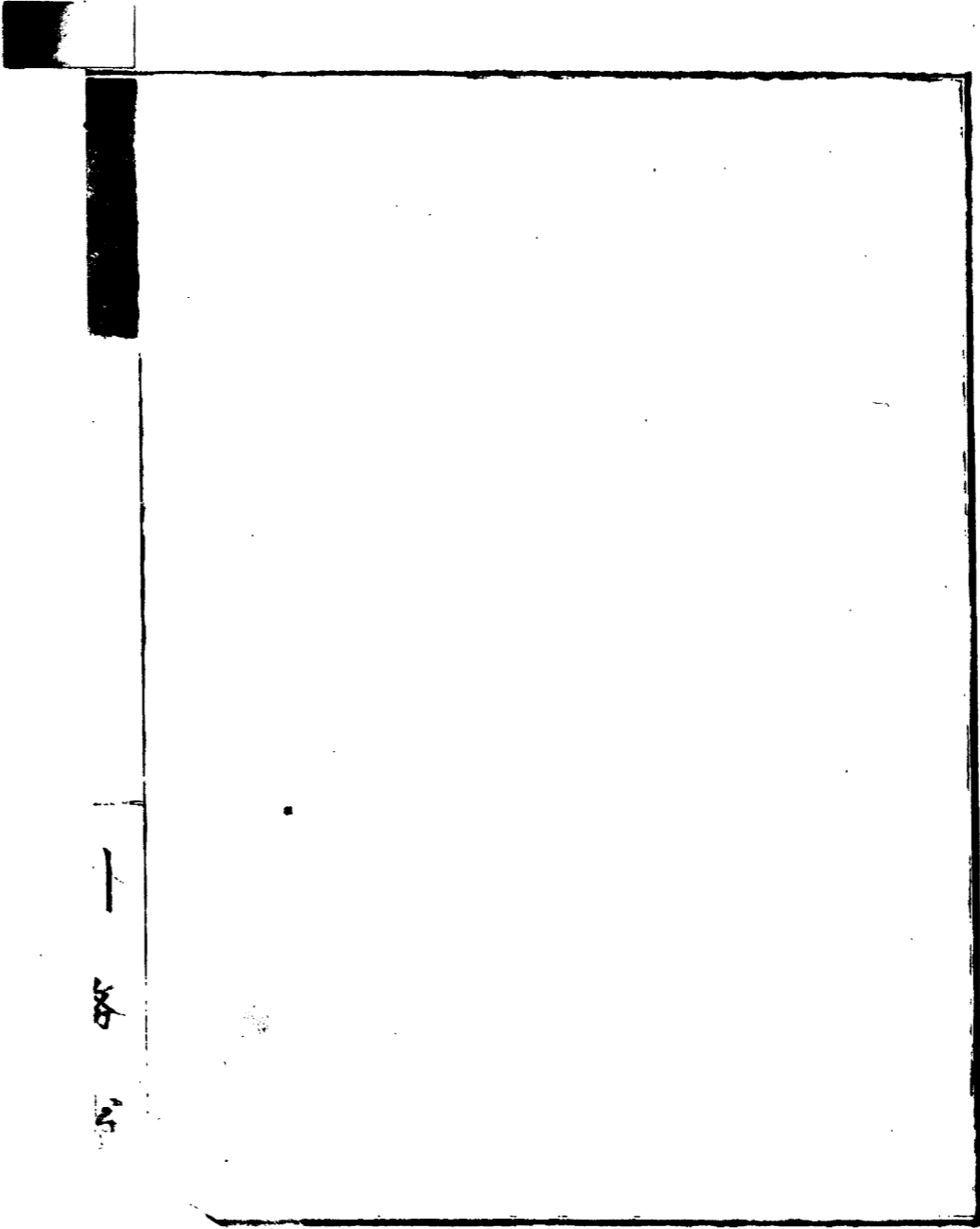
三月九日付書翰乙子  
及覆答等呈  
ル右様ニ付

西園寺公使宛  
三月九日付書翰乙子  
及覆答等呈  
ル右様ニ付

西園寺公使宛  
三月九日付書翰乙子  
及覆答等呈  
ル右様ニ付

2-0055

0476



2-0055

0477

第3章 附註

科考与通商條約

第一款

一 俄國可在慶豐處設立領事官或副領事官該領事官等官應奉朝鮮國之勅准或政府允文方可親任事未到任以前或東海濱者南咸道官辦邊界官一員或別項官員有此職任者朝鮮政府亦應允准可暫行署理領事官事務

二 俄國所派慶豐領事官等官與朝鮮地方官員會晤時及往來文件必須言及朝鮮通商各口領事官最優之禮儀及一切種種利益之處

外務省

三 邊界等官任便前往朝鮮各處應歷勿阻朝鮮地方官盡力相助及結護照并行動酌量以重而女為保護之義其以寄來信件函該俄國官等可附送朝鮮政府文報便通遇有重大緊要事件即交俄國可靠之人或交別國人持持憑心專送沿途勿得攔阻

予慶豐領事官等官之勅准或政府允文之件

Règlements pour le commerce par terre avec  
la Corée, conclus au Séoul le 8 août 1888.

2) Le gouvernement russe aura le droit de fonder à Keng-Khong un consulat ou un vice-consulat.

L'agent consulaire n'entrera en fonctions qu'après avoir été reconnu par le roi ou par le gouvernement coréen.

Jusqu'à l'époque de l'entrée en fonctions de l'agent consulaire précité, le commissaire des frontières de l'Oussouri du Sud ou tout autre fonctionnaire dûment délégué à cet effet, peut, avec l'autorisation du gouvernement de la Corée, exercer temporairement ses fonctions.

3) Dans ses relations personnelles ou par écrit avec les autorités locales, l'agent consulaire de Russie à Keng-Khong jouira sans exception de tous les droits et privilèges accordés aux autres agents consulaires dans les autres localités ouvertes au commerce.

4) Les agents diplomatiques, aussi bien que les agents consulaires et les autorités des frontières, peuvent voyager librement et sans empêchement dans toutes les parties de la Corée; les autorités locales leur prêteront à cet effet toute espèce de concours, leur délivreront des passeports et s'il y a besoin une escorte pour leur protection.

Pour l'expédition de leur correspondance les fonctionnaires russes précités peuvent se servir des établissements postaux de l'Etat existant en Corée. Dans les cas d'une importance toute spéciale, les plis et documents de ces fonctionnaires peuvent être expédiés par un courrier russe ou d'une autre nationalité qui sera muni d'un certificat spécial et ne doit pas être arrêté en route.

2-0055

0479

中ニ特許條約發賣勅旨書及理由書

明治三十七年五月十八日  
光武八年五月十八日

一、勅旨書

一、既往爲特許商標間ニ於テ締結セラルル條約及  
定ハ然テ發賣シ全無効トス  
二、尙書臣民又ハ今社ニ認許シタル特許條約中  
今尙條約期間内ニアル者ハ特許政府ニ於テ  
始ケナシト認シモノ限リ是迄通リ之ヲ継続  
スル事ヲ得セシムルモ豆滿江鴨綠江鮮陵  
島ニ於ケル森林伐植ノ特許ニ至リテハ元  
來一個人ニ許許シタルモノモ官廳ニ於テ  
其政府自ラ之ヲ經營スルモノニ分テ加フルニ  
令於無効トス

外務省

光武八年五月十八日

御押御璽

奉勅 議政府差政 趙秉式

外部大臣 李夏第

二、埋案理由書

大韓政府存日ハ日本ニ對シテ宣戰ヲ以テ大韓  
ノ獨立ヲ維持シテ存存全向ノ歩和ヲ確シタル  
ニシテ事ヲ信シ既ニ條約定書ニ至キ限カ  
シテ日本ノ宣戰目的ヲ達スルニ便ナラシムル爲メ今  
中在在特許商標ヲ撤退スル事トナリ之



以上ノ詳見ル、勿交、常係、全統、如、絶  
 一層、明白、之、必要、上、格、未、處、是、ハ、日、之  
 一層、法、之、先、條、約、及、特、約、合、同、ヲ、發、布、不、以  
 之、爲、爲、之、シ、テ、侵、畧、的、行、爲、ヲ、敢、テ、セ、サ、レ、ム  
 之、爲、ノ、此、ノ、勅、令、書、集、ヲ、具、シ、テ、呈、致、請、兼  
 式、外、部、方、正、李、夏、榮、名、ヲ、以、テ、議、政、府、に  
 提、出、ス

外務省

2-0055

048: